

令和3年2月4日(木) 6校時

## 1 単元のデザイン

## 本単元の目標

- (1) 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。  
〔知識及び技能〕(2) ア
- (2) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。  
〔思考力, 判断力, 表現力等〕C(1)ウ
- (3) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。  
〔思考力, 判断力, 表現力等〕C(1)カ
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに, 楽しんで読書をし, 国語を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力, 人間性等」

## 単元で取り上げる言語活動

自分の選んだ動物について「どうぶつ四コマげきじょう」で紹介し合い, 感想を共有する。  
(関連:〔思考力, 判断力, 表現力等〕C(1)カ)

## 児童について

本学級の児童は, 「どうやってみをまもるのかな」「いろいろなふね」で, 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら, 内容の大体を捉えることや文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことを学習してきている。事柄の順序に沿って読んだり書いたりすることで内容の把握がしやすくなるということは理解できているが, 中心となる語句や文を抜き出すことのできる児童は5割程度である。また, 自分の考えや感想の持ちにくい児童が3割程度おり, 自分の考えや感想を友達と伝え合うことに苦手意識を持っている児童も多い。

## 教材について

本単元では, 自分で調べた動物の知恵についてフリップで紹介する「どうぶつ四コマげきじょう」という言語活動を設定している。この活動により, 動物たちが様々な知恵を使い, 生き抜いていることに着目させることができると考える。「どうやってみをまもるのかな」で動物の身の守り方について読み取っており, 関連性がある題材で児童が内容を想起しやすい教材である。事柄の順序が「どんな動物か」「何ができないか」「どんなことをするのか」「子どもをまもるためにどのように役立っているのか」という構成で2種類の動物の事例が取り上げられている。他の動物ではどうなのかと意欲的に調べ学習を行い, 事例を比較しながら自分の感想や考えを持つことができると考える。

また, 教材文が「いろいろなふね」と同様「始め・中・終わり」の基本的な文章構成になっていることも特徴的であり, 構成の基礎を学ぶ1年生にとって適した教材である。

## 指導について

本単元の指導において, 次のような工夫を図る。

「ざんねないいきもの事典」という書籍を読み聞かせにより紹介し, 本単元と関連させ「動物は残念な生き方をしているのか。」と問うことで, 読み取りの意欲を高める手立てとし, 様々な知恵を使い, 生き抜いていることに着目させたい。

様々な事例を共有し, 比較したり感想や意見を持ったりすることを意図し, 「どうぶつ四コマげきじょう」という言語活動を設定している。事柄の4つの観点を一コマごとに示し, フリップには2つのコマを並べて書かせる。前半2コマは残念な生き方に見えるが, 一転して後半2コマでは知恵を使って生き抜いていることをフリップの転換によって感じ取らせていく。単元の終末に, 自分が調べたもの以外の事例に出会わせ, 感想の交流をすることで, 自分の考えを持つことの大切さや, 交流をして新たな考えに出会うことの楽しさを味わわせたい。

また, 教材文や関連図書の重要な語や文を考えて選び出せるよう, 教材と関連図書を並行して読み取らせ, 事柄の順序を捉える機会を増やして確実に力を定着させたい。そのために, 関連図書は教材文と同様の書きぶりになるようにリライト教材を作成する。

## 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	①「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	①自分の感想や考えを持ち、発表し合うという学習の見通しを持って「どうぶつクイズ」を行おうとしている。

## 3 指導と評価の計画（全14時間）（本時 13/14時間）

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	○教材文で学習したことを生かして、身を守る動物を紹介し合うという学習の見通しを持つ。 (1)	○挿絵や児童の既有知識を基に子どもを守る動物の知恵に着目させ、関心を持たせる。	
二	○教材文を読み、動物の子どもの守り方について読み取る。 ・文章全体の構成を把握し問いと答えの関係や動物たちが知恵を使って子どもを守っていることを読み取る。 (2) ・オオアライクイについて読み取り、事例が4観点の構成であることを捉える。 (2) ・コチドリと自分が選んだ動物について4つの観点について並行して読み取る。 (3) ・教材の2つの事例について比較し、共通点や相違点について考える。 (1)	○「いろいろなふね」の学習を思い出しながら文章構成を把握し、内容の大体を捉える。「はじめ」「中」「おわり」の構成であり、問いと答えの関係があることを押さえる。  ○オオアライクイの事例を取り上げ、「どんな動物か」「なにができないか」「なにをするのか」「子どもをまもるためにどんな役に立つのか」という4つの観点で内容の順序を捉えていくことで動物の子どもの守り方を整理することができることを理解させる。  ○コチドリや自分が選んだ動物についても観点ごとに読み取ればよいことをつかませる。  ○コチドリの事例と自分が選んだ動物を並行してまとめることで、比較でき、共通点や相違点が明確になるよさを実感させる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>[思考・判断・表現①]・ <u>ワークシート</u></p> <p>・4つの観点に基づいて事例の内容を捉え、書き込むことができている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[知識・技能①] <u>ノート</u></p> <p>・事例を比べることで、動物の共通点、相違点が明らかになるにことについて記述している。</p> </div>

「動物の知恵」シリーズの並行読書

三	<p>○自分の選んだ動物について「どうぶつクイズ」を出し合い，感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が選んだ動物の内容をグループで確認し合い，「四コマげきじょう」を完成させる。(3)</li> <li>・「四コマげきじょう」を行い，動物の知恵について感じたことや分かったことを，自分の選んだ動物と比べながら発表し合い，共有する(1) 本時 (13/14)</li> </ul>	<p>○紹介させる動物は4つ程度に絞り，グループで読み取った内容を確認し合えるようにする。</p> <p>○感想を書いたり，交流して共有したりする場面では，動物の子どもの守り方について4つの観点に沿って話し合わせることで，比べて考えることのよさを実感させる。</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度①]</p> <p><u>ノート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達の選んだ動物，教科書の事例を比べながら，自分の感想や考えを持っている。</li> </ul> <p>[思考・判断・表現②]</p> <p><u>ワークシート・観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の動物の知恵について分かったことを自分と友達の意見を比べながら考えている。</li> </ul>
四	<p>○単元の学習を振り返る。(1)</p>	<p>○自分の感想や考えと友達の考えについて振り返らせ，自らの学びを自覚させる。</p>	

## 4 本時の展開

### (1) 本時の目標

「どうぶつ四コマげきじょう」を行い、動物の知恵について自分の感想や考えを持ち共有することができる。(Cカ)

### (2) 本時の展開

学習活動 「主な発問」(思考の場) ・予想される児童の反応	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した 児童への指導の手立て	○評価規準 〔観点〕 (評価方法)
1 前時の学習を振り返り, 本時のめあてを確認する。	◇前時を振り返り, 動物の生き方や身の守り方の工夫をまとめてきたことを想起させる。	
ざんねんなどうぶつはいるのかかんがえ, わかったことをつたえよう。		
2 「どうぶつ四コマげきじょう」をグループで伝え合う。  「調べてきた動物は残念なのかな。何か知恵を使っていたのかな。」 ・ワニは, ぎざぎざの歯があるのに, 口の中に子どもを入れているのがびっくりした。てきも歯でけがをしたくないからこうげきしないんだね。	◇「どんな動物か」「何ができないか」を1枚目の紙に, 「どんなことをするのか」「どんな役に立つか」を2枚目の紙に書く形式で統一し, 2枚目の紙に動物の知恵が書かれていることを確認する。 ◇話し手は, 紙を指さしながら説明したり, 身振りで伝えたりすることで効果的に伝わることを確認する。 ◇聞き手に, 動物の知恵に着目して聞かせ, 分かったことや感想をふせんに書くように促す。  ◆聞く際に, 観点を絞って聞かせ, ふせんに書かせる。 ①知恵はあったかなかったか。 ②知恵のどこがすごかったか。	
3 グループ・全体で感想を交流する。 「どんなことが分かりましたか。」 ・ゾウが, 体についた虫を落とすために, だろ浴びをすることが分かりました。遊んでいるのかと思っていたら虫を落とすためだったのでびっくりしました。 ・スズメの太いくちばしは, 花のみつを吸うためではなくて, かじってか	◇動物の知恵についてわかったことを中心に交流させ, 考えを共有させる。	○複数の動物の知恵について分かったことを自分と友達の見解を比べながら考えている。 〔思考・判断・表現①〕 (ノート・ふせん)

らみつをたべるようにできていると分かりました。すわなくても食べられるので知恵を使っていると思います。

4 まとめ。

どのどうぶつもちえをつかってみをまもり、子そんをのこすためのくふうをしている。

4 学習の振り返りをする。

○期待される児童の姿（振り返り例）

ともだちがおしえてくれたので、どのどうぶつもちえをつかっていることがわかった。しそんをのこすためのくふうなんだと分かった。ほかのどうぶつもちえをつかっているのかしらべてみたい。

### (3) 板書計画

③どのどうぶつもちえをつかってみをまもり、子そんをのこすためのくふうをしている。

・どろあびをする。  
・どろがからだについて虫がつかないようにする。

・口の中に子どもをかくす。  
・てきがおそってこない。

④「ぎんねんなどうぶつはいるのかかんがえ、わかったことをつたえよう。」

ほんとうにぎんねんなの!? どうぶつの生きかた「子どもを まもる どうぶつたち」